

製品名: APLNR ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07012**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	APLNR
別名	APLNR; AGTRL1; APJ; Apelin receptor; Angiotensin receptor-like 1; G-protein coupled receptor APJ; G-protein coupled receptor HG11
遺伝子 ID	187.0
SwissProt ID	P35414
免疫原	抗血清はヒト AGTRL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

背景

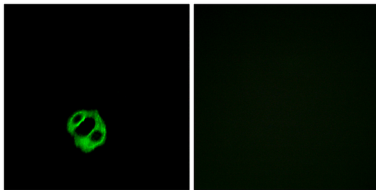
この遺伝子は、G タンパク質共役受容体遺伝子ファミリーのメンバーをコードする。コードされるタンパク質はアンジオテンシン受

容体と関連しているが、実際にはアペリン受容体であり、アデニル酸シクラーゼ活性を阻害し、高血圧作用を発揮することでアンジオテンシン II の血圧降下作用に対する逆調節的役割を果たす。心血管系および中枢神経系、糖代謝、胎児および腫瘍の血管新生、そしてヒト免疫不全ウイルス (HIV-1) のコレセプターとして機能する。選択的スプライシングによって生じる 2 つの転写バリエーションが同定されている。[RefSeq 提供、2009 年 7 月]、機能: アデニル酸シクラーゼ活性を阻害する G タンパク質に共役したアペリン受容体。HIV-1 感染における CD4 との代替コレセプター。AIDS 認知症の発症に関与している可能性がある。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。組織特異性: 脳、グリア細胞、アストロサイト、神経細胞サブpopulation、脾臓、胸腺、卵巣、小腸、結腸に広く発現している。

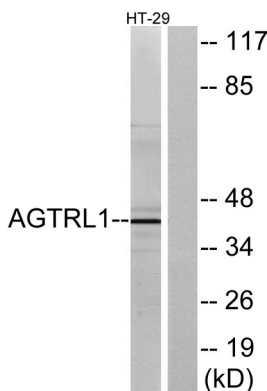
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

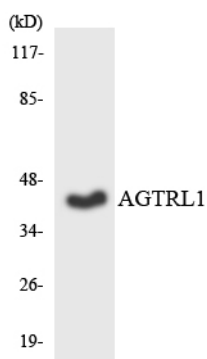
画像データ



AGTRL1 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。

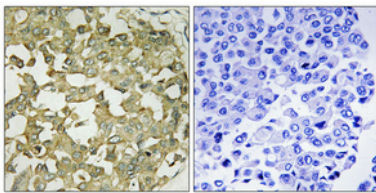
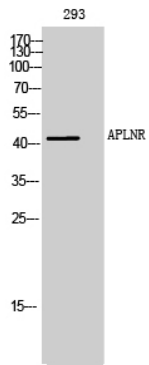


AGTRL1 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



AGTRL1 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

APLNR ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。